

2012 年度事業計画

2012 年 3 月 26 日

学校法人 金城学院

目 次

はじめに	1
《資料》金城学院中期計画（2009年度～2014年度）	
I 2012年度事業計画の策定にあたって	3
II 金城学院大学の事業計画	4
1 使命・目的	
2 教育支援	
3 学生の受け入れ	
4 学生生活	
5 キャリア支援	
6 教育・研究環境	
7 国際交流	
8 社会貢献・地域奉仕	
9 管理運営	
《資料》金城学院大学の将来構想概要	
III 金城学院高等学校及び金城学院中学校の事業計画	8
1 キリスト教教育の推進	
2 教育力の向上	
3 生徒の受け入れ	
4 施設・設備の充実・整備	
5 国際教育の充実	
6 生徒支援体制の充実	
7 健全経営の維持	
8 組織力の向上	
《資料》金城学院高等学校及び金城学院中学校の将来構想概要	
IV 金城学院幼稚園の事業計画	11
1 保育活動の充実	
2 保護者との連携	
3 園児の受け入れ	
4 幼稚園保育園一体化に関わる検討	
5 大学、関係団体及び地域との連携	
《資料》金城学院幼稚園の将来構想概要	
V 法人部門の事業計画	13
1 財務基盤の強化	
2 ガバナンスの確立	
3 人材の育成	
4 各学校・園の規模適正化の研究	
5 KMP21の推進	
VI 予算概要	14
1 予算編成方針	
2 主な事業別予算	

はじめに

創立者であるアニー・E・ランドルフ女史とその協力者であったR・E・マカルピン宣教師をはじめ、福音主義キリスト教に基づく教育に心血を注ぎ、戦前戦後の苦難の時代を乗り越え、現在に至る金城学院の発展を築いてきた先人たちの労苦を見つめるとき、あらためて生徒・学生に対する「思い」や「愛情」が結果として金城学院を大きく育てたことを知る。金城学院創立120周年を迎えた2009年度に、金城学院として今後6年間の中期計画（後掲参照）を発表し、原点に立ち返るとともに、その深化として「金城学院建学の精神のリバイバル」を基本方針とした。それは、建学の精神に込められた金城学院の社会的責任を果たすことが、ブランド資産を向上させ、優秀な人材（学生・生徒・園児・教職員）の確保と教育力の強化にもつながる。具体的にいえば「キリスト教主義による人格教育の強化」「金城学院の建学の精神を生かした女子教育のさらなる推進」「より具体性を伴った国際理解の充実」を3本柱と考え、その実現のために、中期計画及び事業計画に基づきPDCAを徹底し、健全財政の維持、有能な教職員の確保と育成に努め、地域社会との共生に配慮しつつ、教育施設設備の整備を行うことである。

今日は厳しい時代ではあるが、金城学院は長き伝統をもっており、その伝統とは絶えざる改革の連続でなければならないといえる。このために、金城学院全体の組織・機構について客観的な評価を実施して、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、時に応じて金城学院の枠組みを超えて、他組織、他団体等との提携・共同事業等も調査研究し、今後の予測しがたい社会の変化に対応するように備えなければならない。

2011年度は、2009年度に策定した中期計画の前半を終える年度であることから、中期計画の前半を振り返って評価を行った。その結果、中期計画の後半に向けた課題も見えてきた。こうしたことから2012年度は、中期計画の後半に向けた課題を中心に次のことを事業方針として掲げる。

(1) 教育力の向上

各校において自己評価を推進するとともに、授業評価を教育実践に反映させる枠組みを整備する。また、キリスト教主義教育に基づく広い教養と専門性を兼ね備えることを目的とした女性教育をさらに推進する。

(2) 研究の充実

各校の人的資源を有効に活用し、産学官連携の研究活動をはじめ、各校の教育につながる研究活動の推進を図る。

(3) 学生、生徒等支援体制の充実

学生、生徒及び園児に対する修学上の支援策を積極的に推し進める。

(4) 地域及び社会への貢献

地域及び社会への貢献策を検討し、地域や社会とともに成長する学院づくりを目指す。

(5) 維持協力会及び寄付者との関係強化

維持協力会及び寄付者の満足度を高め関係を強化する。

(6) 学校法人の組織力・経営力強化

経営主体たる法人の役割と位置づけを明確にし、学校法人の組織力・経営力を強化する。

《資料》金城学院中期計画（2009年度～2014年度）

【通】：通期目標、【前】：前期目標、【後】：後期目標

全人教育の強化による	校内礼拝の励行と地域教会との関係強化	礼拝の魅力化 【通】 近隣教会への出席の推奨 【通】 キリスト教関係施設による地域貢献のあり方の調査・研究 【前】
	キリスト教教育の再構築	関係諸団体・組織との連携の強化 【通】 宗教教育の体制整備と陣容の確保 【前】 宗教主事の機能・機構の見直し 【前】
	ボランティア活動の活発化	ボランティア活動の推奨、指導 【通】 ボランティア活動の単位認定の研究 【前】
女性教育の建学の精神を活かした	教育力の向上	教養教育の徹底 【通】 女性専門教育の充実 【通】 教育のグローバル化・英語教育の徹底 【通】 魅力的な学部・学科の編成 【通】 中・高・大連携の推進 【通】 教育評価制度の確立と運用 【前】
	施設・設備の充実・整備	エコ・環境に配慮したキャンパスづくり 【通】 キャンパス美化 【通】 キャンパスの保安体制の確立 【通】 中・高キャンパスの整備 【前】 教育用設備の整備 【前】
より国際理解の充実	海外関係校との関係強化	教員の共同研究の促進 【通】 留学生の派遣の促進 【通】 留学生の受入れ態勢の整備と受入れ推進 【前】
	留学生との交流促進	国際交流センターの体制強化 【前】 交流の場づくり 【後】

健全経営の維持	的確な財政検証・予測と資金計画	各校・園の規模適正化の研究 【通】 外部資金・寄付金の導入と活用 【通】 資金の有効活用 【通】 予算精度の向上と弾力的運用 【前】 部門別採算制の実施 【前】
	組織力の向上	組織運営の合理化と責任体制の明確化 【通】 業務管理の効率化 【通】 人事・労務管理の適正化と人材の育成 【前】
	入学・入園者の確保と退学者の防止	広報・宣伝体制の整備 【通】 募集業務の徹底 【通】 在校生相談・指導窓口の充実 【前】
地域社会との共生	環境共生モデル地区の造成	里山と大学キャンパスの共存 【前】 八竜地区の活用 【後】
	キャンパスの地域への開放	ランドルフ記念講堂ほか、施設・設備の利用法の見直し 【前】 見せる施設・利用できる施設の活用 【後】
	人財の派遣・提供	ファッション工房の立上げ・サテライト設置構想の調査・研究 【前】 社会人教育・生涯教育などの諸提携・協力実態の調査・検討 【通】 地域ボランティア活動への参画 【通】

I 2012 年度事業計画の策定にあたって

私学を取り巻く社会環境は、少子高齢化の進行、学校間競争の激化、長期にわたる経済不況など近年大きく変化し、金城学院は、数々の深刻な課題を抱えている。ステークホルダーを含めた社会が求める教育ニーズは更に多様化・高度化し、それに伴って様々な教育制度の改革を推進することは、金城学院にとって急務であるといえる。

大学では、社会の多様なニーズに迅速に対応すべく、2012 年度に現代文化学部国際社会学科及び情報文化学科を廃止し国際情報学部国際情報学科を設置するとともに、現代文化学部コミュニティ福祉学科を廃止し人間科学部コミュニティ福祉学科を設置する。さらに、人間科学部芸術・芸術療法学科を廃止し 2013 年度に文学部音楽芸術学科を新たに設置すべく申請準備を進めている。また引き続き、教育研究の質をさらに高めるよう教育研究の改善努力をするとともに、質の確保のための学内システムを構築する。

高等学校及び中学校においては、数学、理科、外国語及び情報の授業時間数の増加など新学習指導要領に対応すべく教育課程を整備するとともに、2012 年度中学校入学生か

ら入学定員を 360 名から 320 名に変更した。

幼稚園においては、将来計画で掲げた預かり保育と未就園児保育などについての検討を継続した。

法人部門としては、金城学院 120 周年・金城学院大学 60 周年記念事業の一環として 2009 年度に計画された後援会設立と寄付金募集に取り組み、120 周年記念募金を実施するとともに金城学院維持協力会を設立し、3 年間で 7 千万円を超える寄付を受けた。

金城学院は、これらさまざまな社会の変化とその要請に対して迅速かつ適切に対応できるように、幼児教育から大学教育に至る各校において教学及び経営の改革を進めることが重要であると考えている。

なお、今後の各学校における教育環境の改善及びキャンパス整備について、2011 年度に大学、高等学校及び中学校の教育研究活動の基盤となる金城学院キャンパスマスタープラン（略称「KMP21」）を立て、全面的なキャンパス再構築計画に着手した。については、2012 年度からはこの計画に基づき、各学校の校舎等の建て替えを行っていく。

II 金城学院大学の事業計画

18 歳人口の減少にともない、大学を取り巻く状況は非常に厳しくなっているが、大学では、「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、知的に鍛えた強さと優しさを兼ね備えた品格ある女性の育成を目指す。

具体的には、2012 年度も学院の中期計画及び大学の将来構想に基づき、以下の事業を計画し、遂行する。

1 使命・目的

(1) キリスト教に関する諸行事の魅力化

建学の精神を学び、理解するために、礼拝を中心としたキリスト教に関する諸行事に、学生が積極的に参加できるよう工夫する。

(2) 女性教育の理念の再検討

共通教育科目に金城アイデンティティ女性科目群が設けられたことを踏まえ、新たな授業科目の教育効果を検証するとともに、専門教育においても女性教育の新たな理念を検討する。

2 教育支援

(1) 共通教育の適正な運営

新共通教育運営組織を立ち上げ軌道に乗せる。そして、本学の理念にふさわしい共通教育の目標を掲げ、その目標を実現する観点からシラバスの総点検を行う。

- (2) 学士力向上のための単位の実質化に向けた方策の検討
学士力向上のための単位の実質化の実現に向けた方策を検討する。
- (3) 英語教育科目のカリキュラム改訂の検討
学生が意欲的に取り組むことができるようカリキュラムの改訂を検討する。
- (4) 英語以外の外国語教育科目の履修者数の増加
英語以外の外国語に、学生に関心を持たせるための方策を検討する。
- (5) 英語のリメディアル教育の実施
英語の基礎学力を補うことが必要な学生を対象とするリメディアル教育を 2012 年度に試行的に開始し、問題点の把握、検証を行う。
- (6) 情報リメディアル教育の改善
授業科目である「情報リテラシー」の内容に合わせて、情報リメディアル教育のあり方の改善を検討する。
- (7) 新 CALL システムの試験的導入と 2013 年度本格導入に向けての準備
新 CALL システム（コンピュータを活用した外国語教育システム）の試験的導入を行い、問題点の検証を行い、2013 年度の本格導入に向けて遺漏のないよう準備する。
- (8) 中高大の教育連携の推進
中高大教育協議会に連携教育について研究するワーキンググループを設置し、その研究報告及び提言を受け、推進の方策を検討する。
- (9) ボランティア活動の推奨及び支援
ボランティア活動を推奨するための支援体制を整える。

3 学生の受け入れ

- (1) 入試 5 か年計画の推進
2012 年度入試の結果を踏まえ、入試関連の諸状況に応じて「5 か年計画」に必要な修正を加えて計画を進める。
- (2) 質の高い学生の受け入れ
アドミッションポリシーに沿った質の高い学生を受け入れるべく、その方策を検討する。

4 学生生活

- (1) 学生のマナー向上
2012 年度も引き続きマナー向上に向けたキャンペーンなど啓発活動を行う。
- (2) 課外活動の活性化
クラブやサークル活動の報告や成果発表の場を設けるなど、クラブ活動等の活性化のための方策を検討し課外活動を支援する。

(3) 緊急時連絡体制の拡充

緊急メール一斉送信システムが有効に機能するように学生指導を徹底する。

5 キャリア支援

(1) 具体的な就職活動支援

アドバイザー、キャリア支援、キャリアールが連携して就職支援が出来るよう方策を検討する。

(2) 低学年生のキャリア支援

新入生対象に「就職に役立つ基礎力テスト」を実施し、基礎力向上のためのキャリア・アップ講座の受講に結び付けるとともに、低学年向け就職ガイダンスを開催する。

(3) 読書奨励活動の推進

読書ラリーや読書啓発ポスターの作成等、学生に対する読書奨励活動を推進する。

6 教育・研究環境

(1) 大学FD活動の活性化

大学FD委員会を中心に、学部・研究科の枠を超えた大学全体で幅広いFD活動を展開する。

(2) 機関リポジトリの構築

本学の研究成果を広く社会に還元するため、国立情報学研究所のシステムを利用し、金城学院大学機関リポジトリを立ち上げる。

(3) PDCAサイクルの構築

認証評価新基準に基づき、2012年度中に本学におけるPDCAサイクルを構築する。

7 国際交流

(1) 留学支援の見直し

送り出し留学生及び受け入れ留学生の留学支援のあり方を見直す。特に正規留学生の支援のあり方を検討する。

(2) 留学関連科目の充実

留学準備となる授業科目を共通教育科目に設置することを検討する。

(3) 学生と留学生の交流の促進

留学生会館や国際交流センターなどで本学学生と留学生の交流の機会を設け、本学学生と留学生が主体的に活動に取り組むことができる方策を検討する。

8 社会貢献・地域奉仕

(1) サテライトの運営

柴にサテライトを設置して3年が経過する。これまでの運営について検証し、今後の運営のあり方を検討する。

(2) 地域との交流

地域の自治会等と話し合いを進めつつ、地域を対象にした社会貢献活動に取り組む。

9 管理運営

(1) 危機管理規程の整備

緊急時の対応、連絡体制、不測の事態を未然防止するための方策を検討する。

(2) 実務助手との協働

実務助手と事務職員との業務を連携してスムーズに行えるよう必要な対応する。

(3) SD活動の推進

総合的な事務職員の育成計画を検討する。

《資料》金城学院大学の将来構想概要（2009年度～2014年度）

- 1 「キリスト教主義のもと120年の伝統を有する女子大学」にふさわしく、学生を知的に鍛え「強く優しい」女性を社会に輩出する。
 - (1) 建学の精神である女子教育の理想を21世紀に相応しく具体化する。
 - (2) キリスト教主義大学としての魅力を、全教職員の力で学生に示す。
 - (3) 「強く、優しく。」ということばを大切に、卒業生の伝統を受け継ぎ、ブランド・イメージの構築をはかる。
- 2 本学は教育力で勝負し、他大学からの差別化をはかる。
 - (1) 本学の基本的なスタンスは、「キャリア形成」として教育力を発揮することにある。
 - (2) 学生が学びたくなる/学ばざるをえなくなる教育・学習システムを構築する。
 - (3) 「マナーの金城ルネッサンス」をはかり、洗練されたマナーを持つ学生を育てる。
- 3 既存の学部学科の「改組」により、本学の新しい魅力を打ち出し、新たな受験層を獲得する。
 - (1) わかりやすい学科学部名称、魅力的なカリキュラムと資格課程、職業に結びつくプログラムで専門教育の充実をはかる。
 - (2) 「総合計画」を作成し、その柔軟な運用で大学「改組」を継続的に推進する。
- 4 教育目的に見合った美しい教室と校舎を整備するとともに、キャンパス・アメニティの充実をはかる。
 - (1) 美しい校舎とキャンパスの整備を図る。
 - (2) 教育目的に見合う施設・設備を充実する。
 - (3) キャンパス・アメニティを充実し、「金城生活」の満足度を高める。
- 5 国際交流を進める。
 - (1) 留学生の受け入れと送り出しの中期的な目標の設定をする。

- (2) 短期の語学研修とは別に、学科の専門を基礎とする海外研修を推進する。
- 6 社会貢献・地域奉仕を進める。
 - (1) 企業からの委託研究、企業との共同研究などが着実に増えつつある。規程等の条件整備を進め、研究面での社会貢献を推進して行く。
 - (2) ファッション工房を支援する。
 - (3) 地域の自治会等と話し合いを進めつつ、地域を対象にした活動に取り組む。
- 7 魅力的な教職員として成長を続ける。
 - (1) 教員の研究環境を整え、FDを充実する。
 - (2) 事務職員の教育機能を評価し、SDを充実する。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校の事業計画

2012年1月に実施された愛知県下の私立中学校の入学試験では、経済状況の悪化もあり多くの学校で受験者数の減少が見られた。金城学院中学校でも受験者が僅かに減少したが、定員を超えて2012年度入学予定者を確保することができた。

2012年度から入学定員を40名減らしたため、今後6年間は定員減による学納金収入の減少は確実に起こってくることであり、経費等の見直しがなければ財務状況は悪化することになる。しかし、どのような状況下にあっても、与えられた生徒を中学校入学から高等学校卒業まで中高一貫教育のもと、建学の精神に則り指導し、教育事業を展開していかなければならない。

2012年度も、財務状況の向上をめざし、変革を恐れず、変えるべきものは変え、守るべきものは堅持しつつ、神を畏れる知恵と、キリストにある尊厳・品位を有し国際感覚を持ったピースメーカーとしての女性、「自立・自律・連帯」できる女性の育成を目指し、次のように事業計画を進める。

1 キリスト教教育の推進

(1) 礼拝の充実

中学校では毎朝の礼拝に出席することにより、主を畏れる姿勢を身に着けつつ、学校生活の基本が礼拝にあることを学ばせる。

高等学校では毎朝の礼拝に臨む姿勢を整えると同時に、生徒一人ひとりが日々心からの礼拝を捧げ、神の言葉を自ら聴くことができるようにする。

(2) 礼拝出席の励行

礼拝出席の意義を理解させ、特定の日を設けて近隣教会での礼拝出席を勧める。

学校での礼拝講師に近隣の教会の牧師を迎えるなど、教会を身近な存在として意識できるように工夫する。

(3) 関係諸団体・組織との連携

キリスト教学校教育同盟が主催する諸集會に教頭はじめ教員が積極的に参加する。

(4) ボランティア活動の推進

施設の訪問、援助活動、被災地への支援等を通して奉仕の精神を養う。

2 教育力の向上

(1) 新学習指導要領の実施

新学習指導要領に対応して教育内容を充実させ、授業改善を進める。

(2) 中高一貫教育の推進

総合的な学習の時間「Dignity」を柱として中高一貫教育による総合力を育成する。

(3) 中高大連携の推進

中高大教育協議会を通じて中高大連携を強化するとともに、中高校で大学教員の課外授業等を実施する。

中高校の「Dignity」と大学の「アイデンティティ科目」との連携を強めるため、ワーキンググループを設置する。

(4) 自己点検・自己評価の実施

個人のレベルで行っている自己点検・自己評価の取り組みを、教科・分掌で組織的に取り組むようにする。

3 生徒の受け入れ

(1) 第一志望受験生の増加

企画広報室を中心として、本校の教育理念をあらゆる機会を活用して受験者層に周知徹底させ、本校を第一志望とする受験生を増やす方策を検討していく。

(2) 私学協会との協力連携

受験者層の拡大に向けて私学協会と協力して検討する体制を維持していく。

(3) 効果的広報・募集活動の推進

広報・募集活動を点検し、効果的な活動となるよう企画実施する。

4 施設・設備の充実・整備

KMP21 に基づき、高等学校世光館、みどり野館を取り壊し、高等学校体育施設を中心とした新しい校舎の建築を開始する。

5 国際教育の充実

(1) アメリカ及び国内の語学研修の充実と継続的な見直し

アメリカ語学研修旅行の内容充実を図るとともに、イングリッシュサマーキャンプの意義を確認し今後も積極的に展開する。

(2) 新たな国際交流の可能性の検証

海外提携校との関係終了に伴い、新たな国際交流の可能性を検証する。

6 生徒支援体制の充実

(1) 生徒の心のケア体制の向上

常勤・非常勤のスクールカウンセラーと、相談室担当教員及び生徒支援担当教員の連携を強め、万全の生徒支援体制を整える。

生徒の心のケアについてはスクールカウンセラーが、また校内外での生徒の置かれている環境を整えることについては生徒支援担当教員が中心となり、必要に応じて公的機関との連携をとりながら生徒支援を進めていく。相談室担当教員は双方のパイプ役を務め、チームとしての支援体制を支える。

(2) 中学校における進路指導体制の充実

大学への興味を大いに喚起する方策を中高大教育協議会などに提言し、大学説明会等の内容に反映させる。

7 健全経営の維持

(1) 中高の規模適正化の研究

2012年度から始まる8クラス体制への移行で生ずる財政状況の変化を把握し、他校との比較調査等を行い、人事を含めた適正化を検討する。

(2) 独立採算責任制の検討

中学校及び高等学校の帰属収支の改善策を検討する。

8 組織力の向上

(1) 人材育成

役職者・中堅・若手それぞれにふさわしい修養会、研修会等を企画し、現状の問題点を共有する。

(2) 事務局機能の向上

中学校及び高等学校の各事務室の業務を標準化するとともに、教員との連携を通じて生徒支援機能を向上させる。

《資料》 金城学院高等学校及び金城学院中学校の将来構想概要

(2008年度～2012年度)

1 キリスト教主義による教育

(1) 校内礼拝の励行

現行の維持と常の見直し、近隣教会への出席の勧め

- (2) キリスト教教育の再構築
 - 関係団体・組織との連携・維持、中高一貫の更なる検討・実施
- (3) ボランティア活動指導・推進
 - 一層の指導・推進
- 2 女子教育の推進
 - (1) 教育力の向上
 - 中高大連携の推進：中高大教育協議会への協力、中高連携の一層の推進“Dignity”を柱にして（自立・自律・連帯）、中高の学科選択性の促進、クラスサイズダウンの検討
 - (2) 施設設備の充実・整備
 - 環境に配慮したキャンパス整備、校内美化の推進、校内生活・教育の充実のための施設の整備、安全・安心の確保
- 3 国際交流の充実
 - (1) 海外提携校との関係強化
 - 語学研修の常の見直しと充実（アメリカ、国内）、オーストラリア提携校の関係継続、韓国姉妹校との関係継続
 - (2) 外国人による授業実施
 - 中高における英語教育のあり方構築、外国人英語講師の採用
- 4 健全財政の維持
 - (1) 中高規模の最適化の研究
 - 運営の適正規模の研究、組織運営の合理化と責任体制の明確化、人事・労務管理の適正化と人材育成、事務管理の効率化
 - (2) 独立採算責任制の実施
 - 予算精度向上のための事業計画立案、決済（決裁）制度のあり方構築、予算の弾力的運用のあり方検討
 - (3) 入学生徒確保と退学防止
 - 企画広報の体制整備、募集業務の徹底、外部資金導入方途の検討

IV 金城学院幼稚園の事業計画

2012年度に設立40周年を迎える幼稚園は、年度主題聖句「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。」（ヨハネによる福音書20章27節）のもと、年度主題として「あふれる愛・・・小さきものとともに」を掲げ、次の4点を教育目標にする。

- (1) 保護者、保育者、友だちの愛情を受け、安心してその子らしく成長できるように援助する。
- (2) 愛され育つ中で、神と人とを愛し尊ぶ心を養う。
- (3) 自分の持てる力を発揮し、さまざまなことに挑んでいけるように援助する。
- (4) 互いの違いを認め合い思いやり合い、生活できるように導く。

1 保育活動の充実

子どもたちが心身を解放して遊び、そのことを通して仲間と出会い、創意工夫する力を身につけるように導く。

2 保護者との連携

(1) 保護者の保育参加

保護者が保育に参加する機会を設け、開かれた幼稚園としての機能を果たす。

(2) 園長及び教諭との懇談と子育て相談

個人懇談会や降園時の担任との懇談に加え、必要に応じて園長との個別懇談の機会を設けるとともに、子育て相談を保護者から受けられる体制を整える。

3 園児の受け入れ

(1) 入園願書配布の見直し

募集園児数に限定して入園願書を配布していたが、これを見直して出願しやすい環境を整える。

(2) 幼稚園広報の充実

募集力強化につながるよう見学会や説明会などの内容や配付物などを見直すとともに、幼稚園ホームページを充実させる。

4 幼稚園保育園一体化に関わる検討

幼保一体化に関する情報を収集し対応を検討する。

5 大学、関係団体及び地域との連携

大学や、保育学会及び社団法人キリスト教保育連盟などの関係団体との連携を強化するとともに、地域社会のニーズに沿った次の3点の活動を推進することで更に地域との交流を促進する。

(1) 地域の中中学生及び高校生の職場体験学習の受け入れ

(2) 預かり保育のあり方検討

(3) 未就園児保育の拡充

《資料》金城学院幼稚園の将来構想概要（2009年度～2014年度）

1 預かり保育の実施

園児と小学生を対象に園の保育方針に沿った内容で「預かり保育＝教育課程に関わる教育的時間の終了後に行う教育的活動」として、造形教室・ハンドベルクワイアの二つの活動を行ない、その他についても内容を吟味・検討しつつ取り組んでいく。

- 2 施設及び園庭の貸し出し
現在、保育後 30 分間の園庭開放を行っているが、今後、地域を対象に必要なに応じて実施していく。
- 3 0、1、2、3 歳児への親子教室開催
子育て支援活動として、兄弟関係の希望者を対象に行っていく。
- 4 満3 歳児保育（兄弟関係の希望者対象）
現在は入園希望者を対象にして「見学」の形で行っており、入園決定者にはその後 3 回程度、親子の保育体験と保育方針についての説明会を行っているが、今後、対象者を拡げて「子育て支援」としての実施を考えていく。
- 5 保育学会及び外部団体に対する貢献を通し、広報活動の展開
幼稚園の使命を自覚して、広報活動を通して連携・連帯を求めていく。
- 6 環境整備の充実
実のなる木々が生え小鳥や昆虫などの生息しやすい環境が整っている園庭及び周辺の雑木林を、ロープ遊具や築山、子どもたちの遊び場づくりなど、安全で創造力を豊かに育む場として整備する。

V 法人部門の事業計画

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行う様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や多様化するニーズに応えることができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革を推進することを、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画及び事業方針に基づく法人部門の 2012 年度事業計画としては、次の 5 点を掲げる。

1 財務基盤の強化

財務状態の安定のため、各校における学生・生徒募集力の強化、学生・生徒満足度の向上を図り退学率を一層低く抑え、主たる収入としての学生生徒等納付金を安定的に確保する。また外部資金として、補助金、事業収入及び資産運用収入等の増加を目指す。特に、120 周年記念募金を引き継ぐ一般寄付金施策を立案実施するとともに、維持協力会の会員増加を目指す。

2 ガバナンスの確立

中期計画後半の課題とそれに基づく事業計画を達成するために、理事会が計画に沿った運営を先導する。また、明確な執行責任の下で統治機能を十分に発揮できるよう職務権限規程及び事務分掌規程を整備し、機能的に意思決定ができるようにする。

3 人材の育成

安定した経営基盤を築くために、明確な事業戦略とともに人事戦略を立案し、教職員という人的な経営資源を十分に活用できるよう、長期的視野をもって役職者育成を見据えた人材育成に取り組む。

4 各学校・園の規模適正化の研究

大学、高校、中学及び幼稚園の収容定員規模に関する検討をすすめ、適正化の分析手法を検討する。

5 KMP21の推進

理事会の下にKMP21推進室を設置し、その下部機関として設けた3つの建築委員会により、KMP21に基づく各学校の校舎等の建替え計画を遺漏なく推し進める。

VI 予算概要

1 予算編成方針

2012年度予算編成は、中期計画（2009年～2014年）事業の推進を基本に、防災対策強化、省エネルギー対策強化、リスクマネジメント強化など政策的取り組みの実現を目指しながら、収支バランスに留意したものとする。

具体的には、以下の編成方針に基づき、必要かつ妥当と判断された計画の採択を原則とする。

(1) 収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員100%、退学・休学想定率2%とする。

補助金収入は、前年度実績の90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

(2) 支出関連

継続経費は、効率化による見直しで、「2010年度規模に対して3%削減」を目指す。この削減額のうち3分の2程度を、防災対策強化などの政策的予算に再配分する。設備更新関連は、KMP21に基づく各学校のキャンパスマスタープランとの整合性や、緊急性、安全性を十分検討し予算化する。

(3) 帰属収支及び繰越支払資金

2012年度において帰属収支差額比率10%の確保を目指す。2012年度繰越支払資金10億円以上を目指す。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2012年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	主な事業内容	予算額
KMP21 関連事業	・設計監理費 ・解体費 など	365,000
修繕事業 (大学)	・講義室等改修工事 ・図書館空調熱源更新工事 ・本部棟屋上高置水槽漏水補修工事 など	73,936
修繕事業 (高等学校)	・西門廻りブロック塀改修工事 ・栄光館講堂自火報設備及び誘導灯設置工事 ・栄光館舞台装置補修工事 など	14,675
修繕事業 (中学校)	・講堂トイレ改修工事 ・体育館分電盤更新工事	36,831
修繕事業 (幼稚園)	・駐車場雨水排水豪雨対策工事 ・網戸取付工事	1,514
大学校地整備	・隣地越境樹木撤去工事 ・竹伐採および植栽	2,940
戦略広報事業	・新聞広告掲載 ・鉄道額面ポスター掲出 など	75,331
I T 関連事業	・学生情報システム再構築 ・CALL 教室機器更新 ・図書館システムリプレイス ・学院データベースサーバリプレイス など	194,346
防災対策 強化事業	・什器備品転倒防止耐震工事 ・防災備蓄用品購入 ・防災マニュアル改訂 など	18,701
その他	・ランドルフ記念講堂コンサートピアノ導入 ・緊急特別就職支援策 など	101,361
合計		884,634